

新型コロナ 厳しい局面



大阪府医師会
会長 茂松茂人

日本主婦連合会様においても感染者数は増え、人かましては、われわれの往来とともに、ウィル大阪の医療関係団体や市民団体で組織する大阪府地域医療推進協議会の活動におきまして、いつも多大なるご協力を賜っており、この場をお借りいたしまして、心からお礼申し上げます。

令和2年1月から世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、つ判断が遅れ、対応が後手に回らないか、とても心配しています。

認められない日もありましたが、5月21日に大阪府、京都府、兵庫県の緊急事態宣言が解除されたから、徐々に感染者は増え続け、東京都では、新規感染者数がこの数日200人を超えています。大阪でも、80人以上の感染が確認されています。(7月18日現在)。全国

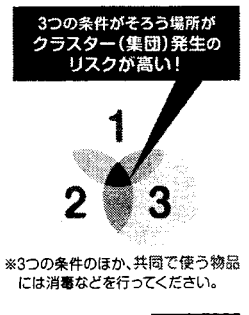
検査体制の拡充など行政に働きかけ

しています。陽性率の上昇は、単にPCR検査数が増えたからだけではなく、市中でも感染している人の割合が高まっている状況の反映とみるべきです。新規感染者のうち夜の街関連は3〜4割にとどまり、職場や家庭、学校などでの感染者が増えています。感染経路不明者も減っておらず、年代は50歳代以下も目立ちはじめ、感染は社会全体に広がっています。確かに4月に比べれば重症者は少なく、医療態勢は、とりあえず小康を保っている状態です。とはいえ、入院患者数は増加傾向で、重症化しやすい高齢者層に感染が広がれば、一気に患者数も増えます。さらに豪雨被災地では感染対策に限界があります。災害への警戒が必須な状況での感染拡大が、大阪府医師会では、大

阪府の新型コロナウイルス感染症対策協議会、同対策本部専門家会議に委員として参画し、軽症者や疑い例への対応、PCR外来や必要病床数など医療体制について意見を述べております。特にこれから、インフルエンザや風邪が流行する秋冬の季節までに病床の確保やPCR検査など検査体制を拡充するよう行政に働きかけてまいります。社会経済活動を再び止めないためにも、感染防止対策の手を緩めてはいけません。私たちの日常生活において、マスク着用や手洗いや、人と距離を取る年齢者層に感染が広がれば、と、多数での会食は自粛するなど、これまでの経験で得た対策がやはり重要です。感染をこれ以上広げないためにも、個人も業界も行政も基本的な対策の徹底をぜひともお願いいたします。

新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力をおねがひします。3つの「密」を避けましょう!

- ①換気の悪い密閉空間
- ②多数が集まる密集場所
- ③間近で会話や発声をする密接場面



新型コロナウイルスへの対策として、クラスター(集団)の発生を防止することが重要です。日頃の生活の中で3つの「密」が重ならないよう工夫しましょう。

首相官邸 Prime Minister's Office of Japan
厚生労働省
厚労省 コロナ 検索